

# 山桜会と関わった思い出

酒井 良之助 元教諭・小学校48期



私が偕行社付属小学校に入学したのは1931年で、前年に学校にほとんどを焼失する火災があり、新入生は仮教室に入れてもらった。この年に完成した大阪城天守閣と競うように翌年に新校舎が建設され、竣工式典の日に講堂・体育館棟の玄関が紅白の幔幕が飾られていたのが妙に記憶に残っている。当時の学校建築としては最高峰と言われた新校舎が二年余りで再建された片桐武一郎校長をはじめ関係者の努力には頭の下がる思いがする。さて山桜会の存在が分かってきたのは卒業近くになってからである。しかし私が卒業した後で日華事変が始まり軍部の教育干渉が激しくなり、翌1938年創立五十周年式典をすまされると片桐校長は辞任された。その際先生は整備に務められてきた卒業生名簿に基づき『山桜会会員名簿』を発行された。これが本会会員名簿の第1号である。戦後追手門学院となって創立七十周年記念に発刊された『七十年志』に片桐先生が執筆された山桜会についての記載によると、山桜会は1900年に入るころには成立していたが、その活動は停滞して久しかった。そこで1913年に着任された片桐校長は着任後の卒業生をもって1916年1月30日に「桜会」を設立された。その育成をまって1928年に山桜会が桜会と合併するという形で山桜会の復興が実現した。この桜会設立の日が山桜会発祥の日とされることになったので2006年の今年が90周年となる。

卒業後は戦争と戦後の混乱の時代が続き母校とは無縁になっていたが、1951年に母校を訪ねたところ恩師山田四郎吉先生の手引きで新設されていた母校の中・高校の教壇に立つことになった。母校は八束周吉学院長の下で着実に発展し、1958年に創立七十周年を迎えるようになる。これに応じた片桐先生と先生の委託を受けた上田常隆氏(1963年卒)を中心に有志の努力で1957年に山桜会が再建され『山桜会報』が創刊された。記念式典の日には小学校の一教室を山桜会展示会室として会員から提供された品々が展示された。私も六年間の生活が全て記録される小学校時代の『児童手帳』などを寄贈させてもらった。また個人ごとに会員カードを作成し、翌年に戦後最初の会員名簿が発刊された。しかし山桜会の最大の課題は財政基盤の整備で、新卒業生の終身会費の額を勘案せよと命じられた。会報発行、総会などで一年に会員一人当たり100円ほど必要で、定期預金金利6%で50年間このサービスを提供するとして算定した結果、入会金と終身会費とで2100円が妥当と申し、これに準じて卒業生にも負担をお願いすることが会則に定められた。

七十周年のころから学院では財政、教育機構の改革が課題となり、安保闘争の世相とともに揺れ動いた。1960年に退職された八束学院長の後任学院長の先行が難航し、1962年に上田山桜会長が学院長事務取扱に就任された。しかしその直後に毎日新聞社社長の重責を背負われたのは学院と山桜会にすれば多大の痛手となった。

1964年に上田氏の尽力で天野利武大阪大学文学部長が東京オリンピックの最中に学院長として赴任、大学の開設と高等学部の校外移転が急務であるとして、これを核とした創立八十周年記念事業を提唱され、記念事業後援会が組織された。山桜会もその一翼を担い、当時の南部知伸(1922年卒)会長は片桐先生とともに募金に奔走された。こうして1966年に茨木の

安威丘陵に大学が開学、翌年に高等学部の移転が完了した。ただし高校の一部は大手前に残存し、茨木にも中学が新設されて、現在の茨木中高、大手前中高となった。また学院長の配慮で大学管理棟の一室を山桜会の事務室として使用できることになった。記念式典は1968年11月に高松宮ご夫妻を迎えて挙行された。刊行された『八十年志』に山上重信先生が「桜会」発足以来の山桜会の動向を年表で詳細に記載されている。先生の依拠された資料の行方が現在分からなくなっているのがまことに惜まれる。

1970年になると大学一期生が卒業し、翌年に山桜会大学部会として「将軍山会」が結成され、その役員が山桜会の役員を兼ねることとなった。これを機にそれまで筆頭常任理事として会務全般を取り仕切られていた林匡夫氏(1933年卒)から後事を託されることになった。その最初の大変な仕事は1972年に天野学院長から大手前校地の売却と箕面移転という将来計画案についての打診があり、それに対応することであった。会報特別号を送付して会員から意見を聴取し、評議員、理事の合同緊急会議を招集し、開陳された意見を学院長に伝えた。その会議の熱気は今も忘れられないもので、計画案は後に撤回された。植野武雄(1917年卒)会長はご心労激しく、1973年に和田種久氏(1925年卒)と交替された。その7月、片桐先生から学院長に会いたいので迎えに来て欲しいとの連絡があり、京都下鴨のお宅から茨木まで車でのお供をした。ご用件はつましい生活の中で蓄えられた浄財百万円を学院教育に寄付されるため、この御芳志は小学校図書室に片桐文庫として伝えられている。先生はその後で何度目かの入院をされ、10月5日に逝去された。その報は後日『あの世からのご挨拶』という葉書で伝えられた。死去の直後に伝えたのでは沢山のの人に迷惑をかけてと御遺志からである。丁度会報17号の最終校正の最中で、浄財ご寄付を伝える記事の一部を割いて緊急報告としてご逝去の記事を挿入したことを覚えている。

林先輩ともよく話し合っていたのは事務組織の確立である。事務室は小学校の講堂入口の脇にある小部屋を借りていたが、不便なので大手前中高の進学指導室の一部を仕切って貸してもらったりと苦勞した。しかし最も困ったのは会員カードの不備である。当時は会報の発送には宛先をガリ版で印刷する宛名印刷の業者があり、変更があると会員カードを訂正し、それを業者に渡してガリ版を訂正してもらう。ところがそのカードを見つけたのが大変で、重複と欠落が相当生じていた。なにしろ小だけ・中だけ・高だけの卒業生、小と中・中と高の卒業生、小と中と高を卒業された方と6種類があり、まれに小と高を卒業した方もいる。それで1973年の夏休みに全会員のカードを家に持ち帰り、会員名簿も参照に新しく考案したカードに記入し直した。X年小卒、X+3年中卒、X+6年高卒の方を1グループとして重複を防ぎ、五十音順に配列してナンバーリングで会員番号をつけていく。最初の二桁が明治、大正、昭和戦前、昭和戦後の識別数、次に二桁が年代、後半の三桁が個人の番号6桁であった。1975年から総会はシティホテルを使用するようになり、その年は将軍山会の協力もあって総会出席者は五百人に達した。この時の出欠回答葉書でカードを総点検し、凸版印刷(株)と契約してコンピューター処理を導入した。

1978年、創立九十周年を前に天野学院長が退任され、山桜会は山